

地域医療連携室だより

2016年度 第5号 3月

ごあいさつ

春がもうすぐになりました。今回は、私たち地域医療連携室よりご挨拶させていただきます。

予測されていた人口減少が進み超高齢化した地域社会では、医療と介護が一体となった、より丁寧な医療の提供が求められています。

地域の人たちから「かかりつけ医+α」の機能を期待された特徴を持った当院には、支援が必要となった高齢者や認知症を持った高齢者を支えるために地域包括支援センターとの連携が必須です。

急性期病院に附属した老健施設の機能と病院の患者ケアの質を高めるために認知症看護研修を受けた看護師を多く育て、認知症サポート医とともに地域包括ケア社会作りに積極的に参加することも課題であります。

昨年、吉川先生を中心とした外科医による身体への負担の少ない腹腔鏡使用消化管手術が増え、また、婦人科太田先生による漢方治療が、身体と心の不調の悩みを抱えた患者さんに支持されており、当院の持つ「+α」が少し増えました。

トップランナーが人生 80 年から人生 100 年の時代に移行しつつある最近、複雑かつ重症な患者の増加が目立ってきました。総合診療能力を高めることが、ますます公共的な意味を持って求められています。

年々、課題は多くなりますが、今年も諸先生や地域の介護と医療に従事されている皆様方のご支援をお願い申し上げます。

副院長 金子 兼喜

医療メディエーター研修を受講する仲間がたいへん増えて参りました。今後も、ひきつづき患者さんと医療関係者とのかけ橋になれるよう日々研鑽を積んでいきたいと思っております。

医療メディエーター 船越 俊幸

連携室業務の奥深さ、重要性を実感しております。前任の師長に替り、まずは院内連携、退院支援部門の強化を目指し、日々活動しております。

診療報酬の改定により、更なる地域包括ケアシステム強化に向けた病院看護師に求められている役割は重要と考えます。外に足を運ぶ院外医療機関等との連携も益々必要性を増すばかりです。今後は、院外に積極的に足を運び、又来院される患者様、関係機関等との情報交換を更に深め、地域に求められる病院であり続けるような温かく且つ迅速な対応をめざしていきたいと考えています。

地域医療連携室 副看護師長 三浦 睦

早いもので地域医療連携室での MSW の仕事も 4 年目に入りました。飛び交う医療用語になかなか馴染めず悪戦苦闘しておりましたが、ようやく自分の役目を果たせるようになってきました。今後も医療・介護の連携の下、退院支援・退院調整を頑張りたいと思っております。

地域医療連携室 MSW 安藤 美紀

日々、退院調整・患者相談に奔走しております。いろいろな方とお話しさせていただく中で新たな発見ばかりの毎日です。いつも連携させていただいている医療機関、介護保険事業所等には本当にお世話になっております。今後とも、よろしく願い致します。

地域医療連携室 MSW 若松 拓也



★ JCHO 秋田病院附属介護老人保健施設のご案内

JCHO 秋田病院附属介護老人保健施設は病院から自宅などに帰る前のリハビリテーションの施設として平成7年5月に開所致しました。一般入所、短期入所、通所リハビリテーション、居宅介護支援センターがあります。

介護保険が始まってからはより介護度の高い方への対応が求められ、一般入所では要介護1以上でないご利用できません。最近は認知症を伴う

入所者が多く、また経管栄養への対応も多くなりました。当施設では介護福祉士の喀痰吸引の研修も引き受けています。最近では「看取り」を希望される方も多くなりました。病院と連携して管理しています。

通所リハビリテーションは日曜・年末年始以外はご利用できます。利用者の増加に伴い、昨年定員を40人に増やしました。

施設長 石岡 隆

家族懇談会 H28.11.27



病院からのお知らせ

【入院セットについて】

当院ではH28・9月より、入院セット（入院生活に必要な日用品・タオル・寝巻・紙おむつ）を導入し、入院時必要な物品用意に対する負担軽減、病院のケア向上・院内清潔保持・感染予防対策等を目的として実施しております。

オムツに関しては、品質、尿吸収量の良質さにこだわり、価格も市販同様にセットされています。

これまでの、寝衣のみ（50円/日）の利用は、3月末で終了となります。

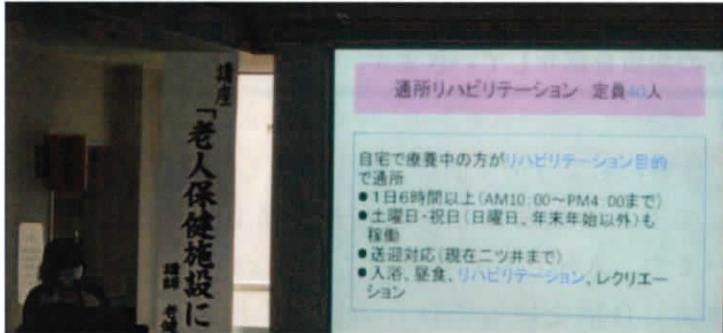
今後も患者サービス向上に努めていきます。制度の導入に対するご理解、ご協力をお願いいたします。



★1/20 第5回市民講座好評！～参加者23名～

皆様から好評をいただいている当院の第5回市民講座を平成29年1月20日（金）に開催しました。体操やオムツの実演を取り入れた参加型の講座は予想以上に好評でした。冬の運動不足

に取り入れたいという感想やオムツに関する専門的情報はなかなか聴くことができないと、参加者男女問わず意欲的に耳を傾ける光景がみられました。今後も医療や介護、テーマを工夫して実施していきます。



★市民講座 今後の予定★

○会場：JCHO 秋田病院 2階 健康管理センター大ホール

○時間：午後2時45分～4時00分（予定 ※変更の場合もあります）

日程	テーマ	講師
5/19 (木)	・骨粗鬆症について	副院長 大塚 博徳
7/21 (木)	・漢方薬に親しもう	産婦人科医師 太田 博孝
9/15 (木)	・最後まで自宅で過ごすための医・食・住について	医療社会事業専門員 安藤 美紀
11/17 (木)	・認知症の早期発見	看護師長 東 美奈子
1/20 (金)	・老人保健施設について	老健看護師長 五十嵐 元子
	・リハビリについて～軽体操を交えて～	理学療法士長 三船 衛
	・おむつのお話 ～おむつを知って生き生きとした生活を～	皮膚・排泄ケア認定看護師 疋田 由香
3/17 (金)	・内視鏡手術について	外科部長 吉川 雅輝



★ JCHO 秋田病院 新人看護職員卒後研修 まもなく終了！！

H28年度、秋田病院には9名の新人看護職員が入職しました。

看護課教育方針にもとづく卒後臨床研修事業計画のもと、先輩看護師が講師となり、臨床事例や事象を題材に、基本的な知識・技術・態度について、毎月計画的に研修を進めてまいりました。H29年2月9日、まとめとして、『1年間を振り返って、努力した自分を褒めよう』というテーマで、振り返りの発表会が行われました。一回り成長し、少し自信も覗かせ、また、1か月後には先輩になる不安も漏らすなど、それぞれの感想を聞く事ができた実りある会になりました。その新人職員のこれからの抱負を紹介していきます。

ようやく看護師になり1年が経とうとしています。まだまだ出来ないことはたくさんありますが、患者一人ひとりとの関わりを大切にし、今自分に出来ることを見つけ、患者を支えていける看護師を目指していきます。

佐藤 咲希

入職してから今まで、たくさんのことができるようになりました。毎日患者様と関わり、責任があると同時に、とてもやりがいのある仕事であると感じています。これからも精一杯頑張っていこうと思います。

大淵 奈菜未

早くも一年が過ぎようとしています。入職当初は上手にできなかった採血も今ではスムーズにできるようになりました。看護技術の向上と共に地域の皆様が安心して入院生活を送ることができるよう日々研鑽していきます。

本間 陵太

入職し、毎日忙しく、看護師として働くことの大変さを日々感じています。今も慣れないことや覚えなければいけないことばかりですが、1つ1つできるようになることの喜びを感じながら振り返り、頑張っていきたいです。

大柄 有希

仕事にもようやく慣れ、優しくそして厳しく指導して下さる先輩方と共に毎日楽しく過ごしています。入社してくる新人に負けないように日々勉強し自信を持って自分の看護が出来るように頑張っていきたいと思います。

岩庭 優里

病棟の雰囲気は良く常に相談できる環境で、自信を持つことが増え成長できています。患者さんの変化を正しく報告し、適確に対応が出来、先輩のように全て対応できなくても焦らず、一つ一つこなしていきたいと思います。

佐々木 桂

1年間掛けて培った看護師としての知識、技術を生かして患者様やその家族に寄り添い質の高い看護を提供していきたいです。その為、日々の経験や学びを大切にして看護師としての自分を磨いていきたいです。

大志田 元紀

できることが少しずつ増えていく毎日がとても楽しいです。患者さんから「あなたに看護してもらいよかった」と言われた時とてもやりがいを感じました。患者さん、先輩たちから信頼されるような看護師を目指して行きます。

牧野 美咲



発行

独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO)

秋田病院 地域医療連携室

秋田県能代市緑町 5-22

電話：0185-52-3271 (代表)

FAX：0185-54-7892 (代表)

FAX：0185-54-1266 (連携室直通)